【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年3月22日(2012.3.22)

【公表番号】特表2011-518824(P2011-518824A)
【公表日】平成23年6月30日(2011.6.30)
【年通号数】公開・登録公報2011-026
【出願番号】特願2011-506217(P2011-506217)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｅ
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　39/12
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　31/12

【手続補正書】
【提出日】平成24年1月31日(2012.1.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（ｉ）異常細胞に対する宿主免疫エフェクター細胞をトリガーすることができる治療化合物、ここで該治療化合物は、ヒトまたは非ヒト霊長類のＩｇＧ　Ｆｃ部分を有する治療抗体であり、該抗体は抗体依存性細胞性細胞毒性（ＡＤＣＣ）を誘発する、および（ｉｉ）ＳＩＲＰαを介して開始される抑制シグナル変換を減少しまたは防ぐことができる少なくとも１つの剤を含む組成物。
【請求項２】
該剤が、ＳＩＲＰαとＣＤ４７との間の相互作用を阻害することができ、その結果ＣＤ４７／ＳＩＲＰα複合体を介した該抑制シグナルが減少される、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
該剤が、タンパク質様物質である、請求項１または２に記載の組成物。
【請求項４】
該剤が抗ＣＤ４７抗体もしくは抗ＳＩＲＰα抗体またはそれらの断片である、請求項３に記載の組成物。
【請求項５】
該抗体断片が、Ｆａｂ断片、Ｆ（ａｂ’）$_2$断片、ＣＤＲまたはｓｃＦｖである、請求項３または４に記載の組成物。
【請求項６】
該異常細胞がガン細胞である、請求項１～５のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項７】
該治療抗体が、ＦＤＡにより承認された治療抗体である、請求項１～６のいずれか１項に

記載の組成物。
【請求項８】
該治療抗体が、リツキシマブ、ハーセプチン、トラスツズマブ、アレムツズマブ、ベバシズマブ、セツキシマブ、及びパニツムマブからなる群から選ばれたものである、請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
該異常細胞が、ウィルスに感染した細胞である、請求項１～５のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１０】
治療化合物として、ウィルスワクチンを含む、請求項９に記載の組成物。
【請求項１１】
骨髄系細胞および／または貪食性細胞による増大した貪食から利益を得るだろう疾患または障害の処置または予防の為の医薬であって、該医薬はＳＩＲＰαを介して開始される抑制シグナル変換を減少しまたは防ぐことができる剤を含み、且つ、該疾患または障害が、増大した抗体依存性細胞性細胞毒性（ＡＤＣＣ）から利益を得るだろう、前記医薬。
【請求項１２】
該疾患がガンである、請求項１１に記載の医薬。
【請求項１３】
該疾患がウィルス感染症である、請求項１１または１２に記載の医薬。
【請求項１４】
該剤が、ヒトまたは非ヒト霊長類のＩｇＧ　Ｆｃ部分を有する治療抗体と一緒に用いられ、該抗体が抗体依存性細胞性細胞毒性（ＡＤＣＣ）を誘発する、請求項１１～１３のいずれか１項に記載の医薬。
【請求項１５】
該剤が、ペプチド、抗体、または抗体断片である、請求項１または２に記載の組成物。
【請求項１６】
該異常細胞が、ポックスウィルスに感染した細胞である、請求項１～５のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１７】
治療化合物として、ポックスウィルスワクチンを含む、請求項９に記載の組成物。
【請求項１８】
該疾患が、ポックスウィルス科のメンバーにより引き起こされる感染症である、請求項１１または１２に記載の医薬。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
それゆえに、本発明の１つの局面は、（ｉ）異常細胞に対する宿主免疫エフェクター細胞をトリガーすることができる治療化合物、ここで該治療化合物は、ヒトまたは非ヒト霊長類のＩｇＧ　Ｆｃ部分を有する治療抗体であり、該抗体は抗体依存性細胞性細胞毒性（ＡＤＣＣ）を誘発する、および（ｉｉ）ＳＩＲＰαを介して開始される抑制シグナル変換を減少しまたは防ぐことができる少なくとも１つの剤を含む組成物に関する。例えば、ＳＩＲＰαとＣＤ４７との間の相互作用を抑制することができる剤が用いられ、その結果、ＣＤ４７－ＳＩＲＰα相互作用を介した該抑制シグナルが減少される。宿主は哺乳類であり、好ましくは霊長類またはげっ歯類、より好ましくはヒト対象である。